

山行報告書

京都田辺山友会

15. 8.6 報告者 中島貞夫

山名	南アルプス 甲斐駒ガ岳・黒戸尾根	山行名	個人山行／小屋泊
ルート	山梨県白州・竹宇駒ガ岳神社―七丈小屋―甲斐駒ガ岳―ピストン		
山行日	2015. 8. 1～3	天候	晴れ時々曇り
参加者	リーダー： 中島貞夫 サブリーダー： 岡本綾子 男性：植西晃干		

ルート概略図	コースタイム					
	地名		時：分	地名		時：分
竹宇駒ヶ岳 神社	着	8/1 15：45	甲斐駒頂上	着	6：40	
	発	8/2 5：00		発	7：00	
笹の平	着	7：20	七丈小屋	着	8：25	
	発			発	9：00	
刀利天狗	着	10：05	笹の平	着	11：15	
	発			発		
七丈小屋	着	12：30	竹宇駒ヶ岳 神社	着	13：45	
	発	8/3 4：20		発	14：15	
8合目	着	5：20	京田辺	着	19：00	
	発			発		

「山行報告」 8月に入ってやっと天気も安定して我々の山行も天候の心配をせずに登れてラッキーだった。厳しいコースではあるが、以前から一度挑戦してみたいと思っていたので、同好の仲間に声をかけた。登山口の竹宇駒ガ岳神社の駐車場は、尾白川溪谷の入り口でもあり、多くの家族連れで満杯状態であった。夕方雷と夕立に遭ったが、テントと車で仮眠して2日早朝にスタートする。つり橋を渡って樹林帯の中をひたすら登る。笹の原を過ぎてさらに厳しい八丁登り、岩の尾根「刃渡り」は鎖を持って通る、このあたりから石碑や小さい祠が随所にあり歴史を感じる。急なはしごや鎖場を過ぎるとゆるやかな黒戸山の巻き路になるが、五合目小屋跡からははしごと鎖の連続、七丈小屋まで1時間ほどはなんとか登ったと、いう感じだったが12時には到着したので、「がんばったなー」と我ながら歓心した。半日小屋でゆっくりできた、あくる日は晴天、足元は雲海が広がる景色を見ながら登り、八合目付近でご来光を仰ぎ、誰もいない山頂に無事登頂した。360度の展望、雲海に浮かぶ、南、北、中央アルプス、八ガ岳、富士山、秩父山系いつまでも見ていたい。下山は小屋まで戻り、重く感じるザックを背負って、鎖場、はしごを慎重に降りる。岩場を過ぎ笹が続くと距離感がなくなり、長く歩いたつもりでもなかなか着かない。水の音と、子供の声が聞こえてきて、やっと下りたと実感した。冷たい溪流で体を拭いてさっぱりとして帰ることができた。

ヒヤリハット

なし

毎年、楽しみにしている夏山集中登山に、今年は日程が合わず、参加出来ませんでした。中島さんの「1週ずれて甲斐駒黒戸尾根に行くよ。」に手を挙げた無知な自分は、後に大後悔。日本三大急登！標高差 2200m！！はあ、2200mってなに？と一人つつこみ。メンバーは、植西さん、中島さんと大ベテランのお二人。初めての南アルプスで楽しみはずが、体力の心配ばかりです。日が近づくとさすがに覚悟を決め、これは修行なんだと思う事にしました。時間配分を調べ、このポイントまでは何分かかかるから“ひたすら耐える”と単純な作戦？を立てました。何より体調が良かった事が、功を奏しました。夏



山では、何かしら体調不良を起こしていましたが、今回はすこぶる順調、食欲もあります。登りながら高度を少しずつ上げていける事も良かったのかも知れません。逆にお二人の体調が悪かったようで、ハイペースにならなかった事もひとつです。でもやはり植西さん、中島さんは体調が悪くても、このハードな急登を登り切るところがすごいなあと思いました。自分の父とは、父が 50 歳、私が 24 歳の時に死別しています。車の中で、今、父が生きていたらこんな感じなのかなあと、思いに耽りましたが、山登りの逞しさを見ると、うーんちょっと違うかなと思い直しました。親子ならそろそろ介護が



必要な年齢ですが、これじゃあどちらが要介護者かわからない?! 長い梯子や鎖をクリアしながら、七丈小屋に到着しました。黒戸尾根コースは、登山者も少なく、小屋は一人で切り盛りされているようで、大変なのか、性格なのか愛想が全くない。これについては言いたい事はいろいろありますが、また個別に聞いて下さい。確かに夏山シーズンにしては、擦れ違う登山者も少なく、驚いたのは、トレイルランニングの青年が多かった事です。荷物は軽そうですが、日帰りするのはハードだと思うけど、やっぱり若さなのかなあ。天気にも恵まれ、次の日、登頂に成功。360° のパノラマに、あれが八ヶ岳、富士山、あー御嶽山が見える。と

素晴らしい風景を堪能。やっぱり山はいいね！と惜しみつつ下山開始。お二人の体調も戻り、下山ペースが速い。遅れ気味について行くが、後半には膝がガクガクしてきた。やはり下山の方が大変で、なるべく膝に負担をかけないような歩き方を身に付けたいといけないなあと思う。家に着いた頃には、もう筋肉痛で、それだけ標高差が大きかったんだなと実感しました。



